

# のアルバム

▼ 11月4日 JR野洲駅前



## まちを照らすイルミネーション

11月1日より野洲市商工会によるイルミネーションがJR野洲駅北口・南口に設置されました。今年はデザインが一新され、これまでとは違った装飾となっています。

また、駅南口には、ドウタクくんとやよいちゃんとのフォトスポットも設置されました。

「野洲の元気を創出する！」をコンセプトに、光でマチとヒトに元気を与えよう、笑顔とにぎわいを創り出そう、野洲から元気を発信したいという思いが込められています。

このイルミネーションは令和4年1月16日まで毎日午後5時～10時に点灯されます。

ぜひ、ご覧ください♪

## 元気いっぱい！秋の運動会

秋の涼しさが感じられるなか、篠原小学校で運動会が開催されました。

「みんなで協力して最後まで。全力でがんばろう！」をスローガンに掲げ、これまで練習を積み重ねてきた児童たち。

個性豊かな団体演技をからだ全体を使って表現したり、グラウンドを全力で駆け抜ける姿から、運動会への意気込みが感じられました。

自分を信じて、仲間を信じて、練習の成果を発揮することができました。



▼ 10月21日 篠原小学校



▼ 10月10日 中主B&G海洋センター



## 体育館リニューアルオープン！

中主B&G海洋センター体育館の修繕工事が完了し、リニューアルオープン事業として、さざなみスポーツクラブによるスポーツ教室「わんぱく塾」を開催しました。

参加した小学生約50人が新しくなった体育館で気持ち良い汗を流しました。

同体育館は、令和7年に開催される第79回国民スポーツ大会の練習会場になることから、B&G財団の助成制度を利用し、老朽化した照明のLED化やトイレの洋式・多目的化などを実施しました。

# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(207)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

## 失われた古墳 —宮山一号墳—

皆さんは、博物館の前に広がる弥生の森歴史公園の中に古墳が1基保存されているのをご存じでしょうか。この古墳は宮山二号墳といい、昭和37（1962）年の東海道新幹線の整備に伴う土取り工事で発見されました。直径15mの円い形をした古墳（円墳）で、横穴式石室と呼ばれる、石造りの埋葬施設（亡くなった人を葬る空間）を持ち、その入口には外護列石と呼ばれる石垣のような施設がもうけられていました。これらの特徴から、6世紀の終わりから7世紀の初めごろ（西暦600年前後）に造られたと考えられています。

さて、この宮山二号墳とは別に、宮山一号墳という古墳も存在しました。宮山一号墳は野洲市辻町、国道8号線沿いにある三上神社の近くにあり、昭和27（1952）年の国道8号線の整備に伴う工事中に発見されました。ブルドーザーで山の端を削ったところ大石と穴があり、工事関係者が中に入ると古墳であることがわかったため、昭和28（1953）年に京都大学文学部考古学教室が発掘調査を行いました。

宮山一号墳は直径17.5m前後の円墳で、埋葬施設は横穴式石室でした。中には石の棺が2基置かれており、それとは別に木の棺があったと考えられています。石室の奥からはよろいや刀などが、羨道と呼ばれる通路部分からは壺や高杯などの土器が見つかりました。これらは亡くなった人に捧げるため、いっしょに入れられたものです。出土遺物は、現在、京都大学が所蔵しています。造られた時期は、宮山二号墳よりやや前と考えられています。

宮山一号墳は、発掘調査の後、道路工事に伴い失われました。こういった保存が難しい古墳や遺跡は、発掘調査によってその全容を明らかにし、郷土の歴史として記録を残す必要があります。「そこにこういう遺跡があった」ということを後世に伝えていくのは、文化財保護に携わる職員の大事な役割なのです。（学芸員 井上 竜也）



【写真】

発見された当時の宮山一号墳（『宮山一号墳調査報告書』より）



## 和歌山市への応急給水活動

市は、10月3日に和歌山市で発生した六十谷水管橋崩落事故に対して、日本水道協会滋賀県支部からの要請を受け、事故翌日の4日～11日の8日間、給水車と職員延べ5人を派遣しました。

現地での本市の活動は、断水地域の貴志南小学校を拠点とし、受水槽と地元の皆さんへの給水を実施。

活動期間中、多くの皆さんから感謝の声をいただきました。

▼10月4日～11日 和歌山市



▲貴志南小学校の児童よりいただいたメッセージ